

2-2 学生の入学・定員・卒業数，進路

2-2-1 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

環太平洋大学は、豊かな人間性やコミュニケーション能力を備え、深い専門性と指導力・実践力を持った人材の育成を目指している。そのため、各学科の教育目的を理解し、大学生の本分はまず、学業にあると心得、文化・芸術、スポーツ及びボランティアなど、学内外の様々な活動に進んで参加し、教養を広め、専門的知識・技術を身に付け、他者と協働して社会の発展に寄与することができる人材を求めている。そこで、高等学校において各教科の知識・技能と、それらを活用する思考力・判断力・表現力等を身に付け、自ら積極的に学ぶ姿勢を持つ人間性豊かな自律的人材を受け入れる。

○選抜の基本方針

各学部・学科のアドミッション・ポリシーを参照。

《体育学部の入学者受入れ方針》

体育学部では、豊かな人間性、健康・スポーツ科学に関する専門的知識と実践力等を身に付けた人材を養成することを目的にしている。

■ 入学前に身に付けておく能力

- (1) 豊かな人間性・教養と課題解決力、②文化としての健康・スポーツの理解に基づくコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、③国際人としての自覚とアイデンティティの涵養、④健康・スポーツに関する関心や学習意欲

■ 求める人材

- (1) 入学後の修学に必要な一定レベルの学力を有するとともに、体育学科では特定のスポーツ種目に秀でた技能を持っている人
- (2) 幅広い教養と、健康・スポーツに関する専門的知識、運動技術や柔道整復術の修得に向かって努力する人
- (3) 体育・スポーツ分野の教員もしくは指導者、公務員、企業人、あるいは健康分野の医療人として活躍したいと明確な目的意識を持っている人
- (4) 体育・スポーツや健康について学んだことを糧として、社会の多様な分野でリーダーとして、その発展に貢献しようとする目的意識を持っている人
- (5) 高校での学習において、保健・体育の学びを深め、多くのスポーツ種目を幅広く経験し、体育学科では特定のスポーツ種目の技能を高めている人

■ 選抜の基本方針

体育学科、健康科学科の選抜の基本方針を参照のこと。

体育学部 体育学科

体育学科では、豊かな人間性を備え、国際的、全国的、地域的な各レベルの体育・スポーツ界をリードする多様な専門家の養成を目的としている。このため、学部のアドミッション・ポリシーに従って以下のような資質・能力を身に付けた人材を求めている。

- (1) 「IPU 体育会五訓」〈信頼・感謝〉を理解する能力、及び日本だけでなく世界に対する意識・関心
- (2) 自らの身体において健康・パフォーマンス向上を考えることができる能力及び携わる人々や選手の健康・パフォーマンス向上を考えることができる能力
- (3) スポーツに関する様々な事象に対する興味・関心及びスポーツに関する「見る」「支える」ことについて積極的に参加する態度
- (4) 自分のなりたい職業とスポーツの関わりについて意見を持つ能力及びスポーツに関する「見る」「支える」ことについての積極的参加する態度
- (5) 今までのスポーツの経験において、仮説を持つ能力及び仮説を検証する力

- (6) 「IPU 体育会五訓」〈礼節〉とスポーツパーソンシップを理解する能力、及び「共育」を理解し、積極的に周り人と人とかかわっていく姿勢
- (7) 「IPU 体育会五訓」〈克己〉〈前進〉を理解する能力、及びスポーツのなぜを考え抜く姿勢
- (8) 探究活動の経験をし、自分の意見が発信できる能力及び最後まであきらめない（レジリエンス）姿勢

以上の学科の求める人材像に基づき、体育学科での学習に必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」等の学力や人間性を多面的に評価するため、以下の選抜方法により入学者の選抜を行う。

- ①総合型選抜 自己推薦入試では、一般教養試験、小論文及び面接により基礎的な学力及びこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、体育・スポーツ界で活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ②総合型選抜 兄弟・姉妹入試では、一般教養試験、小論文及び面接により基礎的な学力及びこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、体育・スポーツ界で活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの深い理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ③総合型選抜 スポーツ芸術入試では、高等学校の調査書の評定平均が3.0以上でかつ、運動・芸術のいずれかに特に優れ、その成果を客観的に証明できる者を対象とする。競技・演技実績証明書、小論文及び面接により基礎的な学力及びこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、競技力・演技力、体育・スポーツ界で活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ④学校推薦型選抜 系列校入試では、本学と系列校の生徒で、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.5以上の者を対象とする。調査書、小論文及び面接により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、体育・スポーツ界で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の深い理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ⑤学校推薦型選抜 スポーツ・芸術入試では、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.0以上でかつ、運動・芸術のいずれかに優れ、その成果を客観的に証明できる者を対象とする。競技・演技実績証明書、小論文及び面接により高等学校での学びや運動、芸術などの実績、考える力やコミュニケーション能力、体育・スポーツ界で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ⑥学校推薦型選抜 公募制入試では、学校長の推薦が得られる者を対象とする。一般教養試験、調査書、面接により基礎的な学力及び高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、体育・スポーツ界で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。
- ⑦一般選抜入試では、調査書及び学力試験により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、体育・スポーツ界で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。
- ⑧大学入学共通テスト利用入試では、大学入試センター試験での、国語・外国語・数学のうち、高得点の2科目をそれぞれ100点に換算をし、高等学校での学びの実績などを評価する。
- ⑨スポーツセカンドキャリア入試では、競技実績証明書、小論文及び面接によりこれまでの学習や社会人としての活動の状況、競技力、考える力やコミュニケーション能力、体育・スポーツ界で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。

体育学部 健康科学科

健康科学科では、健康・医学の専門性を身に付け、広く人間の健康を科学する医療人の養成を目的としている。このため、学部のアドミッション・ポリシーに従って以下のような資質・能力を身に付けた人材を求めている。このため、以下のような人材を求めている。

- (1) グローバルな視点を持ち、健康、医療、経済および社会動向へ高い関心を持ち理解する姿勢

- (2) 入学後の修学に必要な一定レベルの基礎学力を有し、積極的に体育、医学教育へ取り組む姿勢
- (3) 幅広い領域の学問に対して、主体的に取り組む能力
- (4) チームワークを大切にし、良好な人間関係を構築する姿勢
- (5) 多方面より適切な情報を収集し問題解決に導く姿勢
- (6) プロフェッショナルな指導者としての責任を自覚し、社会規範に則り行動する姿勢
- (7) 体育・スポーツに関する科学的知見や、日進月歩する医学・医療に対し生涯学び続ける姿勢
- (8) 情報活用力、論理的思考力、問題解決力、創造的思考力などを有機的に統合させ、新たな課題に対し主体的、創造的に取り組む姿勢

以上の学科の求める人材像に基づき、健康科学科での学習に必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」等の学力や人間性を多面的に評価するため、以下の選抜方法により入学者の選抜を行う。

- ①総合型選抜 自己推薦入試では、一般教養試験、小論文及び面接により基礎的な学力及びこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、健康理想社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ②総合型選抜 兄弟・姉妹入試では、一般教養試験、小論文及び面接により基礎的な学力及びこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、健康理想社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの深い理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ③総合型選抜 スポーツ芸術入試では、高等学校の調査書の評定平均が3.0以上でかつ、運動・芸術のいずれかに特に優れ、その成果を客観的に証明できる者を対象とする。競技・演技実績証明書、小論文及び面接により基礎的な学力及びこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、健康理想社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ④学校推薦型選抜 指定校入試では、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が本学が指定する基準を満たした者を対象とする。調査書、小論文及び面接により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、健康理想社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ⑤学校推薦型選抜 系列校入試では、本学と系列校の生徒で、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.5以上の者を対象とする。調査書、小論文及び面接により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、健康理想社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の深い理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ⑥学校推薦型選抜 スポーツ・芸術入試では、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.0以上でかつ、運動・芸術のいずれかに優れ、その成果を客観的に証明できる者を対象とする。競技・演技実績証明書、小論文及び面接により高等学校での学びや運動、芸術などの実績、考える力やコミュニケーション能力、健康理想社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ⑦学校推薦型選抜 公募制入試では、学校長の推薦が得られる者を対象とする。一般教養試験、調査書、面接により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、健康理想社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。
- ⑧一般選抜入試では、調査書及び学力試験により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、健康理想社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。(全学科)
- ⑨大学入学共通テスト利用入試では、大学入試センター試験での、国語・外国語・数学のうち、高得点の2科目をそれぞれ100点に換算をし、高等学校での学びの実績などを評価する。
- ⑩スポーツセカンドキャリア入試では、競技実績証明書、小論文及び面接によりこれまでの学習や社会人としての活動の状況、競技力、考える力やコミュニケーション能力、健康理想社会で活躍したいとい

う意欲や姿勢、本学科の特性の理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。

《次世代教育学部の入学者受入れ方針》

次世代教育学部では、豊かな人間性、教育学・保育学・心理学・社会学などに関する専門的知と実践力を身に付けた教育者、保育者、国際人、指導者を養成することを目的にしている。

■入学後に身に付ける能力

次世代教育学部カリキュラム・ポリシーに基づいた学びを通じて、① 優しさ・たくましさ・協調性など、豊かな人間性、② 日本及び他国の文化への関心とコミュニケーション能力、③ 一定レベルの学力と、幅広い教養と専門的知識、④ 専門的知識とそれを活かす実践力を身に付けて、社会の発展に貢献しようとする明確な目的意識を身に付けることができる学生を求めている。

■求める人材

- (1) 次世代の教育や現在社会の課題に強い関心をもっている人
- (2) 教育者に必要な専門知識とそれを活用できる教育実践力の修得を目指す人
- (3) 幅広い教養と子どもの発達や個性に応じた教育に関する専門的知識の修得に向かって努力する人
- (4) 豊かな人間性を培い、グローバル社会の新たな教育者として、国際的な視野での「コミュニケーション能力を磨き、思考力・判断力・表現力の修得を目指す人

■選抜の基本方針

こども発達学科、教育経営学科の選抜の基本方針を参照のこと。

次世代教育学部 こども発達学科

こども発達学科では、未来を担う健全な次世代を育てることができる保育者・教育者・指導者として活躍する人材の養成を目的としている。

このために、学部のアドミッション・ポリシーに従って以下のような資質・能力を身に付けた人材を求めている。

- (1) 保育者を目指すために必要となるグローバル社会・国際理解等に対する関心
- (2) 保育者を目指すために必要となる乳幼児期から青年期に至るまでの子どもへの関心
- (3) 保育者を目指すために必要となる子どもを取り巻く環境、問題、状況に対する関心
- (4) 保育者を目指すために必要となる基礎的なコミュニケーション能力
- (5) 保育者を目指すために必要となる基礎的な問題解決力
- (6) 保育者を目指すために必要となる基礎的なチームワーク力
- (7) 保育者を目指すために必要となる基礎的なセルフマネジメント能力
- (8) 保育者を目指すために必要となる創造的思考力

以上の学科の求める人材像に基づき、こども発達学科での学習に必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」等の学力や人間性を多面的に評価するため、以下の選抜方法により入学者の選抜を行う。

- ①総合型選抜 自己推薦入試では、一般教養試験、小論文及び面接により基礎的な学力及びこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力や豊かな表現力、保育者・教育者・指導者として活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ②総合型選抜 自己表現入試では、絵本等の朗読又は自己PR、小論文及び面接により基礎的な学力及びこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、保育者・教育者・指導者として活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ③総合型選抜 兄弟・姉妹入試では、一般教養試験、小論文及び面接により基礎的な学力及びこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、保育者・教育者・指導者として活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの深い理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。

- ④総合型選抜 スポーツ芸術入試では、高等学校の調査書の評定平均が3.0以上でかつ、運動・芸術のいずれかに特に優れ、その成果を客観的に証明できる者を対象とする。競技・演技実績証明書、小論文及び面接により基礎的な学力及びこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、保育者・教育者・指導者として活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ⑤学校推薦型選抜 指定校入試では、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が本学が指定する基準を満たした者を対象とする。調査書、小論文及び面接により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、保育者・教育者・指導者として活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ⑥学校推薦型選抜 系列校入試では、本学と系列校の生徒で、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.5以上の者を対象とする。調査書、小論文及び面接により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、保育者・教育者・指導者として活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の深い理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ⑦学校推薦型選抜 スポーツ・芸術入試では、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.0以上でかつ、運動・芸術のいずれかに優れ、その成果を客観的に証明できる者を対象とする。競技・演技実績証明書、小論文及び面接により高等学校での学びや運動、芸術などの実績、考える力やコミュニケーション能力、保育者・教育者・指導者として活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ⑧学校推薦型選抜 公募制入試では、学校長の推薦が得られる者を対象とする。調査書、一般教養試験、面接により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、保育者・教育者・指導者として活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。
- ⑨一般選抜入試では、調査書及び学力試験により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、保育者・教育者・指導者として活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。
- ⑩大学入学共通テスト利用入試では、大学入試センター試験での、国語・外国語・数学のうち、高得点の2科目をそれぞれ100点に換算をし、高等学校での学びの実績などを評価する。

次世代教育学部 教育経営学科

教育経営学科では、次世代に向けて、グローバルな視野を持ち人権感覚の鋭い教育者、指導者、地域のリーダーとして活躍する人材の養成を目的としている。

このために、以下のような人材を求めている。

- (1) 基礎的な英語力とコミュニケーションマインド
- (2) 指導能力を身に付けるための学力的基盤、学力を尊重する態度、基礎体力
- (3) 基礎的・基本的な知識・技能
- (4) 目的に応じて情報や考えなどを正確に理解したり表現したりする能力
- (5) 必要な情報を収集、加工し、相手を考えて発信する能力、情報倫理、情報機器の基本的操作能力
- (6) 「公共心」や「倫理観」、社会奉仕の精神、他者への思いやり、健康の保持増進のための実践力
- (7) 他者（児童・生徒）に対する親しみの感情、他者との関わりにおける成功体験
- (8) 小論文・プレゼンを通して、課題に対する興味・関心と理解力、論理的な思考力、文章表現力

以上の学科の求める人材像に基づき、教育経営学科での学習に必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」等の学力や人間性を多面的に評価するため、以下の選抜方法により入学者の選抜を行う。

- ①総合型選抜 自己推薦入試では、一般教養試験、小論文及び面接により基礎的な学力及びこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、教育現場で活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ②総合型選抜 兄弟・姉妹入試では、一般教養試験、小論文及び面接により基礎的な学力及びこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、教育現場で活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの深い理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価

する。

- ③総合型選抜 スポーツ芸術入試では、高等学校の調査書の評定平均が3.0以上でかつ、運動・芸術のいずれかに特に優れ、その成果を客観的に証明できる者を対象とする。競技・演技実績証明書、小論文及び面接により基礎的な学力及びこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、教育現場で活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ④学校推薦型選抜 指定校入試では、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が本学が指定する基準を満たした者を対象とする。調査書、小論文及び面接により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、教育現場で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ⑤学校推薦型選抜 系列校入試では、本学と系列校の生徒で、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.5以上の者を対象とする。調査書、小論文及び面接により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、教育現場で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の深い理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ⑥学校推薦型選抜 スポーツ・芸術入試では、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.0以上でかつ、運動・芸術のいずれかに優れ、その成果を客観的に証明できる者を対象とする。競技・演技実績証明書、小論文及び面接により高等学校での学びや運動、芸術などの実績、考える力やコミュニケーション能力、学校現場で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ⑦学校推薦型選抜 公募制入試では、学校長の推薦が得られる者を対象とする。調査書、一般教養試験、面接により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、教育者として活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。
- ⑧一般選抜入試では、調査書及び学力試験により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、教育者として活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。
- ⑨大学入学共通テスト利用入試では、大学入試センター試験での、国語・外国語・数学のうち、高得点の2科目をそれぞれ100点に換算をし、高等学校での学びの実績などを評価する。
- ⑩スポーツセカンドキャリア入試では、競技実績証明書、小論文及び面接によりこれまでの学習や社会人としての活動の状況、競技力、考える力やコミュニケーション能力、教育者として活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。

《経営学部の入学者受入れ方針》

経営学部では、豊かな人間性・幅広い教養に基づく課題提案力、異文化理解に基づくコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、国際人としての自覚とアイデンティティーの涵養に基づく実践力と生涯学習力、経営に対する総合的な学習経験に基づく知識の習得とそれらを活かす実践力養成を目的にしている。

■入学後に身に付ける能力

経営学部カリキュラム・ポリシーに基づいた学びを通じて、現代経営に関する総合的なリベラルアーツを修得することで、①豊かな人間性・幅広い教養に基づく課題提案力、②異文化理解に基づくコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、③国際人としての自覚とアイデンティティーの涵養に基づく実践力と生涯学習力、④経営に対する総合的な学習経験に基づく知識とそれらを活かす実践力を身に付けることができる学生を求めている。

■求める人材

- (1) 知識・技能を保有し、社会の出来事を把握し理解できる人
- (2) 努力して目標を達成した経験を持ち、自身の強みと弱み、価値を語れる人
- (3) 目的達成のために課題を解決し、採るべき方策を考え、自分の意見としてまとめることができる人。
- (4) 自分の考えを的確に表現し、客観的な分析に基づいて相手に伝え、説得できる人
- (5) 次のような関心、意欲、態度が備わっている人
 - ①主体的に学習に取り組みたいという意欲
 - ②経済、技術の動向や、企業活動への高い関心
 - ③ディスカッションを通じて自身及びチームメンバー全体の学習向上を図りたいという意欲
 - ④グローバルな環境に触れ、理解したいという意欲
- (6) 英語力の向上及び理数系科目も含む基本的な学習に高校等でも積極的に取り組み、同時に、文章の読解力、表現力向上を目指し、多くの読書を行っている人

■選抜の基本方針

現代経営学科の選抜の基本方針を参照のこと。

経営学部 現代経営学科

現代経営学科では、現代経営に関する総合的なリベラルアーツを身に付け、経済・産業の諸分野において中核を担う企画力と実行力、及び起業家精神をもつ有為な人材の養成を目的としている。

このために、学部のアドミッション・ポリシーに従って以下のような資質・能力を身に付けた人材を求めている。

- (1) グローバルな環境に触れ、経済・社会分野を多面的に理解したいという意欲及び国際人としてグローバルに活躍できることを目指す姿勢
- (2) 経済・経営に関する動向、情報・技術の動向や、企業活動への高い関心を持ち、修得した知識によって社会の出来事を把握し理解する能力
- (3) 英語や理数系科目も含む主要科目の基礎を高校卒業までに修得し、大学入学後も文章の読解力、表現力向上について積極的に取り組む姿勢
- (4) 自分の考えを的確に表現し、客観的な分析に基づいて相手に伝え、説得できる力
- (5) 現実社会の問題を論理的・数量的に考え、情報通信技術を用いて解決しようとする考え方
- (6) ディスカッションを円滑に行うことのできるコミュニケーション能力及びディスカッションを通じて自身及びチームメンバー全体の学修向上を図りたいという意欲
- (7) 主体的に学習に取り組みたいという意欲及び努力して目標を達成した経験を持ち、自身の強みと弱み、自己の価値を語ることができる力
- (8) 目的達成のために課題を解決し、採るべき方策を考え、自分の意見としてまとめることができる能力

以上の学科の求める人材像に基づき、現代経営学科での学習に必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」等の学力や人間性などを多面的に

評価するため、以下の選抜方法により入学者の選抜を行う。

- ①総合型選抜 自己推薦入試では、一般教養試験、小論文及び面接により基礎的な学力及びこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、企業、社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ②総合型選抜 兄弟・姉妹入試では、一般教養試験、小論文及び面接により基礎的な学力及びこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、企業、社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの深い理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ③総合型選抜 スポーツ芸術入試では、高等学校の調査書の評定平均が3.0以上でかつ、運動・芸術のいずれかに特に優れ、その成果を客観的に証明できる者を対象とする。競技・演技実績証明書、小論文及び面接により基礎的な学力及びこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、企業、社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ④学校推薦型選抜 指定校入試では、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が本学が指定する基準を満たした者を対象とする。調査書、小論文及び面接により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、企業、社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ⑤学校推薦型選抜 系列校入試では、本学と系列校の生徒で、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.5以上の者を対象とする。調査書、小論文及び面接により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、企業、社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の深い理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ⑥学校推薦型選抜 スポーツ・芸術入試では、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.0以上でかつ、運動・芸術のいずれかに優れ、その成果を客観的に証明できる者を対象とする。競技・演技実績証明書、小論文及び面接により高等学校での学びや運動、芸術などの実績、考える力やコミュニケーション能力、企業、社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ⑦学校推薦型選抜 公募制入試では、学校長の推薦が得られる者を対象とする。調査書、一般教養試験、面接により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、企業、社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。
- ⑧一般選抜入試では、調査書及び学力試験により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、企業、社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。
- ⑨大学入学共通テスト利用入試では、大学入試センター試験での、国語・外国語・数学のうち、高得点の2科目をそれぞれ100点に換算をし、高等学校での学びの実績などを評価する。
- ⑩外国人留学生入試では、日本語能力試験N3程度以上の者を対象とする。日本語試験と面接により、日本語能力や異文化理解の精神、考える力やコミュニケーション能力、企業、社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。

[2021年5月1日現在]